

特集 4 慢性腎臓病薬物治療の現状



まつもと ゆりこ
松本 有里子

久留米大学医学部
内科学講座腎臓内科部門 助教



ふか み けい
深水 圭

久留米大学医学部
内科学講座腎臓内科部門 主任教授

要旨

高齢化に伴い慢性腎臓病（CKD）患者の増加が予想され、CKDの重症化を予防する対策が求められている。保存期CKDは末期腎不全へ進行すると腎代替療法（RRT）が必要となるのみならず、脳血管疾患や心血管疾患のリスク因子にもなる。

CKD患者に対しては血圧や血糖、動脈硬化に対する包括的な管理が重要であり、腎保護、さらには死亡率低下を目指す治療が求められる。従来のレニン・アンジオテンシン（RA）系阻害薬に加え、SGLT2阻害薬、ミネラルコルチコイド受容体（MR）拮抗薬、腎性貧血治療薬であるHIF-PH阻害薬など新規薬剤が上市されており、さらなる新規薬剤開発が期待される。

キーワード

レニン・アンジオテンシン（RA）系阻害薬, SGLT2阻害薬, HIF-PH阻害薬,
ミネラルコルチコイド受容体（MR）拮抗薬